

富士市立田子浦小学校校舎改築事業

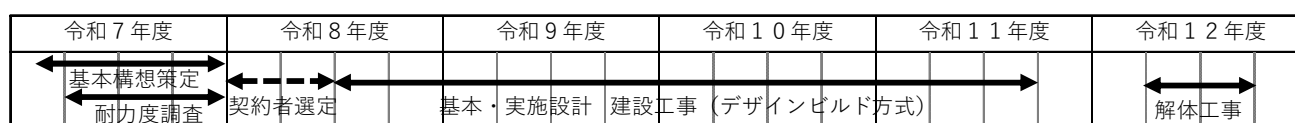
教育総務課

1 著しい老朽化対応のための改築

- 令和3年3月に策定した「市学校施設長寿命化計画」では、老朽校舎の改築に係る財政負担を平準化するため、平成29年度の耐力度調査結果をもとに優先順位を決定している。
- 田子浦小学校校舎は、本計画において、令和10年度の供用開始を想定し、大規模改修を見送ってきたが、建設から62年が経過し、給排水管の老朽化、コンクリート天井部材の剥落、校舎内各所で雨漏りが発生するなど、学校生活に支障をきたす老朽化が顕著であるため改築を行う。

2 整備の方針

- 「市小中連携・一貫教育基本方針」では、改築時に教育的効果や地域の実態を踏まえ、小・中学校の校舎を一体的に整備する施設一体型を検討することとしている。
- 田子浦地区では中学校校舎が改修済みであり、耐力度調査の結果も良好であるほか、体育館も新しく教育環境に優れているため、中学校敷地に小学校校舎棟を増築し、令和12年4月の開校に向け、既存施設を活用した施設一体型小中一貫校の整備を進めたい。
- 事業スケジュール



- 概算事業費（資材価格や労務費の上昇により変動の可能性有）（千円）

	事業費	（国庫補助）
基本構想・耐力度調査（着手中）	12,210	
設計	150,000	
建設工事	3,554,000	960,000
既存中学校校舎内部改修	269,000	
小学校校舎解体工事	373,000	187,000
計	4,358,210	1,147,000

3 適正規模・適正配置基本方針との整合性について

- 田子浦中学校区においては、各学年が3～4クラスで構成されており、令和2年度末の地区別人口推計では、新校舎の供用開始が予定される令和12年度以降においても、著しい変化は見られず、令和36年度までは3クラスを維持できる見込みである。
- 同推計によれば、今後、適正規模・適正配置基本方針の改定を行ったとしても、中学校校舎が寿命

を迎える概ね 20 年後の令和 26 年度においては、現時点と同規模のクラス数が確保されるものと考えられることから、適正規模の観点からは整合性が図られると推察される。

年齢		6	7	8	9	10	11	12	13	14
学年		田子浦小学校						田子浦中学校		
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
令和 7 年度	生徒数	106	119	115	109	92	94	96	86	121
	学級数	4	4	4	3	3	3	3	3	4
令和 1 2 年度 (供用開始)	生徒数	93	94	94	95	104	114	102	123	121
	学級数	3	3	3	3	3	4	3	4	4
令和 2 6 年度 (中学校校舎寿命)	生徒数	89	91	94	96	98	98	99	97	98
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3

※クラス数は、静岡方式の35人学級を基準として算出

※令和 7 年度の児童・生徒数及び学級数（特別支援級除く）は、令和 7 年 4 月 1 日現在のもの

4 地区への説明状況

年月日	団体	説明内容
令和 7 年 2 月 18 日	田子浦小中学校 学校運営協議会	開校までの事業スケジュール 令和 7 年度の事業内容
令和 7 年 5 月 2 日	田子浦地区教育連絡協議会※	開校までの事業スケジュール 令和 7 年度の事業内容
令和 7 年 7 月 10 日	田子浦地区教育連絡協議会	施設一体型小中一貫校のモデルとして、 松野学園を視察

※田子浦地区教育連絡協議会…田子浦地区のまちづくり協議会会長、民生委員児童委員協議会、保護司会、交通安全協会、小・中学校長及び PTA 会長、児童クラブ、幼稚園長及び PTA 会長、保育園長などで構成

- 田子浦地区の各団体においては、本事業について概ね賛同を得ており、早期の開校を望む声が寄せられている。本年 11 月 12 日に、本事業の進捗状況等について改めて同地区教育連絡協議会に対し説明を行う予定である。

5 複合化の検討状況

- 中学校敷地に整備計画を進める場合、児童の安全確保や育成支援、学校との連携の観点から、たごうら児童クラブについては、敷地内又は隣接地への移転を検討する。一方、その他の公共施設については、各施設の耐用年数が十分にあり、学校のセキュリティ対策など複合化に伴う課題も整理する必要があるため、概ね 20 年後の中学校校舎改築時に、施設ごとの配置計画等を踏まえ検討を行う。